

2023

3月

# 患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 107 号



日に日に暖かい春の日差しを感じる頃となりました。

今月号は、消化器内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、病理診断科の3つの科を紹介いたします。

## 消化器内科

消化器内科では消化器疾患を幅広く診療しています。そのなかで、炎症性腸疾患（IBD）に対しては4名の外来担当医を中心に、内視鏡検査と成人の内科治療を当科で担当し、福島県内各地から患者さんが来院されています。

炎症性腸疾患は、おもに潰瘍性大腸炎とクローン病からなり、我が国でも患者さんが増加しています。病気の根本的な原因は未だ明らかではありませんが、検査法や治療法が飛躍的に進歩してきました。

クローン病は小腸に病気が生じることがあるにもかかわらず、以前は小腸の精密検査が困難でした。しかし、現在では小腸内視鏡やカプセル型内視鏡（いわゆる飲む内視鏡）での検査が実用化され、診断で大きな威力を発揮しています。また当科では、MRIを用いた腸管の簡便な検査法として、放射線科の協力のもと MREC(MR entero-colonography)も取り入れています。

治療法の進歩も目覚ましく、従来 of 内科治療で効果が乏しかった潰瘍性大腸炎やクローン病の患者さんに対して、様々な種類の分子標的薬が実用化されるようになりました。分子標的薬とは、病気に関係する分子（主にタンパク質）へ作用するように設計されたお薬で、患者さんの病状やライフスタイルに応じて使用を提案しています。

当科を受診するきっかけは、下痢や血便が続いて炎症性腸疾患が疑われた、現在の治療で効果が乏しいため紹介されたといった理由の他に、患者さんに若年の方が多いゆえ、進学や就職・転勤に伴う紹介が多いのが特徴です。炎症性腸疾患では長期的な治療が必要であるため、常に最新の知見を取り入れ、持続可能な診療体制の構築に努めて参ります。

【消化器内科】

### 炎症性腸疾患（IBD）の外来診療曜日（消化器内科） R5年4月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
初診	—	午前	—	午前	午前
再診	—	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後

当院のIBDの診療では、小児は小児科、手術が必要な患者さんは消化管外科で、連携しながら診療を行なっております。

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

当科は命と機能を外科的にも内科的にも守る科です。

耳や鼻では手術治療に加え、難聴の早期診断、補聴器、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、好酸球性副鼻腔炎に対する抗体薬（デュピルマブ）など非手術的な診療にも積極的に取り組んでいます。

口腔・咽頭・喉頭では嚥下障害や音声障害の評価と保存的治療に加え手術治療を行っており、小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対するアデノイド切除や口蓋扁桃摘出にも対応しています。

頭頸部では頭頸部癌（口腔癌・咽頭癌・喉頭癌・唾液腺癌など）の集学的治療を主としますが、良性疾患にも対応しています。内視鏡の進歩により微小な咽頭癌が見出されるようになり、侵襲の少ない経口的摘出術の実績を重ねています。術後の化学放射線療法では標準治療を変えた日本発の臨床試験にも参加しました。再発・転移癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の症例も増えています。今後は、咽頭癌に対する経口的ロボット支援手術や、局所再発頭頸部癌に対する光免疫療法の導入を予定しており、さらに厚みのある頭頸部癌診療を提供できるよう努めてまいります。

【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】

## 病理診断科

患者さんの診療を縁の下から支えている「病理診断」を行う病理診断科を紹介します。

内視鏡検査や手術を受けた患者さんから採取された細胞や組織は、顕微鏡で観察できる病理標本とし、顕微鏡を使って正常と違うところを判断し病名を付けるのが「病理診断」です。医学知識を駆使して病理診断を専門に行う「病理医」は病理診断科に12名、うち8名が病理専門医です。毎日精度の高い診断を心がけています。ちなみに病理標本の作製は病理部の検査技師が行います。

各臨床科の主治医は「病理診断」を含めて総合的に診断を行い、その後の治療方針を決定します。そのため「病理診断」は皆さんの診療に大きく関わっています。特に、がんの診断は、ほぼ病理組織学的に行われ、「病理診断」が最終診断に大きく影響します。治療薬選択に必要ながん細胞の特性を調べるのも「病理診断」の一部です（コンパニオン診断）。「がんゲノム検査」も病理部に保管している病理標本で行われます。

病理診断科は、益々患者さんの診療に深く関わっていきます。お目にかかる機会がありませんが、どうぞお見知りおきください。

【病理診断科】

## 患者サポートセンター部長より年度末のご挨拶

連携病院の皆さまをはじめとした地域の診療所、福祉施設、介護施設、保健所の皆様には温かいご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

地域にとって良質な医療・介護を提供できよう、当院の理念である“健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩む”を大切に、今後も医療連携を進めてまいります。

福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター 門馬 智之